

聴く

新潟いのちの電話だより

2018.3

No.136



相談電話

(025) 288-4343

上越(025) 522-4343

長岡(0258) 39-4343

新発田(0254) 20-4343

村上(0254) 53-4343

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa-net.jp>

いつか道は開けると信じ「いのち」を大切に

高橋竹育

突然、史佳が将来新潟竹山会三代目会主を継ぐと承諾してくれました。半ば諦めていた私に勇気と希望が湧いてきました。昨年11月には法人化し会社を設立し、演奏家はもちろん経営にも携わる毎日になりました。振り返ってみますと、大学、サラリーマン時代の経験は、決して無駄ではなかったと思います。今の仕事をやるうえで活かされており、生き生きとした史佳の姿を目の前にして「あの時の決断が間違っていなかったのだ」と、改めて確信しました。

史佳が新潟に戻って18年目になりますが、思い切って三味線の道を選んでくれてよかったと思うと同時に、いつしか私の心の不安も消えていきました。三代目会主を継ぐことになって、私の長年の夢が実現することになります。三味線ひとすじできた私の人生にとって最高の贈り物を考えてくれています。ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

いのちの電話のイベントでの演奏や、講演会で、親子で話をさせていただくことがあります。初めてのときは、うわべだけの話しかできずにいましたが、回を重ねるたびに、史佳の芸に対する自信もつき、最近では私も史佳も堂々と、なにごとにも隠さず話すようになりました。いのちの電話の講演会のおかげで、親子共々強くなりました。そしていつも原点に戻れる時間をいただいております。

講演会で「いのち」の大切さを話す時、一番気をつけていることは、この世に与えられた「いのち」を無駄にせず、自分のできることを一生懸命に貫き通すことです。もしも途中で挫折することがあったとしても、いつか道は開けるもの。絶対に「いのち」を粗末にしないでいただきたいと思います。これからも少しでも手助けになることを願っています。

これまでたくさんの方々にお世話になりましたこと、心よりお礼申し上げます。

(三味線演奏家・新潟高橋竹山会会主)

ある日の相談室より

「誰も話す人がいなくて...」

とても寒い冬の夜、静かな女性の声でした。

お母さんを早くに亡くし、以来約30年間お父さんと二人暮らしで、数年前にお父さんが病気になり、この方が一人で身の周りの世話をしてきましたが、2年前にお父さんも他界され今は一人きりの生活をしているといいます。

「父の事は尊敬していて大好きだったので、身の回りの世話を大変と思ったこともないし、人生を捧げてきた事に後悔はないんです」

「本当にお父さんのことを大切に思っていたんですね」

「でも...亡くなって、ちょっと解放されたような...ほっとしている自分もいます」と、話す声はとても寂しそうです。

「精一杯お父さんの為に身の回りの世話をしてきたからこそ、そういうお気持ちにもなるんでしょうね」

「2年経っても心は空っぽで寂しいです...これからどう生きていったらいいかわからなくて」友達をつくったり、趣味を探す時間も余裕もなかったと。

「時間が止まったままのようです」

「毎日どのように過ごしていらっしゃるんですか？」

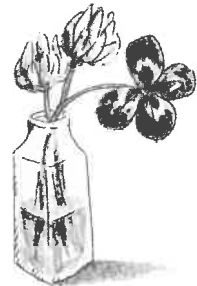
「最近は何度か図書館に出かけて行って本を読んでいます。父もとても読書家でしたから」お父さんの影響で、昔から本を読む事は好きだったとの事。

「よく出かけられたら、お知り合いができるかもしれませんね」

「図書館でよくお見かけする人がいるんですよ、今度挨拶してみようかな」

この方の時間がまた進んでくれることを願いながら、受話器を置きました。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)



心に空きスペースを

布施直美

最近では目から耳からと絶え間なく情報が入ってきます。私も普段から少しでも時間があれば携帯を見てニュースや天気をチェック、ちょっとした隙間にSNSで人とやりとり、そして、わからないことがあればその場で検索…。頭がクルクルと回転し休まず、その結果、大事なことをすっかり忘れるといったおまけが付き、そのミスのカバーにまた動くといった始末です。寝る前には携帯を見ない、パソコンをしないなどオーバーヒートした脳には、強制的に自分でシャットダウンするのが良いのはわかっていますが、実際にはなかなかできません。

先日、工学系の学生さんから、隙間や遊びのないフル作動の機械がいかにか簡単に壊れるかを教えてもらいました。すべての部分が全機能では不具合になっても補う部分がなく、すぐに壊れてダメになってしまうらしいのです。

人もある意味同じだなあと思って彼の話聴いていました。私のように携帯やSNSなど何かをすることで常に隙間を埋め、きつきつでオーバーヒートしそうな日々では、必ずどこかで故障しそうです。多少の不具合が生じても

どこかで補修できるよう、心の隙間や余裕のある生活を心掛け、今年は是非、実行に移すつもりです。

皆さんはいかがでしょう。心の中にどのくらいの空きスペースをお持ちでしょうか。

(臨床心理士)



毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。
電話番号 0120-783-556

お知らせ

新潟いのちの電話利用状況

2017年1月1日から12月31日までの1年間の状況です。

・電話相談

相談受信数 18,214件
(うち、自殺傾向のあるもの
1,489件、8.2%)

1日あたりの平均は、50件

・自殺予防フリーダイヤル

(全国いのちの電話と協力し
毎月10日に実施しています)

相談受信数 606件
(うち、自殺傾向のあるもの
113件、18.6%)

1日あたりの平均は、48.5件

・インターネット相談

相談受信数 203件
(うち、自殺傾向のあるもの
91件、45.0%)

孤独、家族の問題、人間関係(いじめやハラスメントを含む)、心の病など、多くの相談が寄せられています。生きる望みをなくし、死を考える方の相談も多いです。この状況をご理解いただくことで、私たちをとりまく問題は少しでもよくなると信じております。

新年度に向けて

3月に、理事会および評議員会が開催されました。2018年度の事業計画と予算が承認され、新年度の準備が整いました。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

2018年 ボランティア相談員認定式

3月17日(土)新潟市内において、35期生14名の認定式と、1期から34期までの認定更新式が行われました。またこの日、長年継続している相談員に理事長から感謝状が贈られました。5年継続4名、10年継続5名、15年継続4名、20年継続3名、30年継続1名です。

電話相談員は毎年1回誓約書を提出し、認定を受けることで、活動を継続しています。心も新たに、365日24時間体制の相談をつなげていきたいと思えます。



2018年3月25日発行

社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-3 新潟ユニゾンプラザ ハート館
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp>

3月の絵手紙



Sakurai Kouzi